

FRAGRANT PEN

Patent Number: JP10291396
Publication date: 1998-11-04
Inventor(s): ISHIBASHI KOUJI
Applicant(s): ISHIBASHI KOUJI
Requested Patent: ☐ JP10291396
Application Number: JP19970139076 19970421
Priority Number(s):
IPC Classification: B43K29/20
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PROBLEM TO BE SOLVED: To enhance an efficiency of business or learning according to a psychological effect brought by fragrance by sealing perfume having an operation of encouraging or tranquilizing spirit in a ballpoint pen, and evaporating the perfume at the time of using the pen.

SOLUTION: A barrel 1 of a ballpoint pen is formed of synthetic resin. A tube 2 for storing ink 6 is formed of fine or intermediate fine, and hence a gap between the barrel 1 of the pen and the tube 2 is formed relatively widely. Threads 3 are provided at a position of about 1/3 down the barrel 1 of the pen to split the barrel 1 into upper and lower parts. A cylindrical sponge 5 is inserted into a gap between the barrel 1 and the tube 2. The gap is not filled with the sponge 5, but formed to retain a small gap 7. Perfume of jasmine or lavender is soaked to the sponge 5, and then the threads 2 are engaged.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-291396

(43) 公開日 平成10年(1998)11月4日

(51) Int.Cl.⁶

B 4 3 K 29/20

識別記号

F I

B 4 3 K 29/20

A

審査請求 未請求 請求項の数 8 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平9-139076

(22) 出願日 平成9年(1997)4月21日

(71) 出願人 390006219

石橋 綱次

福岡県福岡市南区大平寺1丁目23番21号

(72) 発明者 石橋 綱次

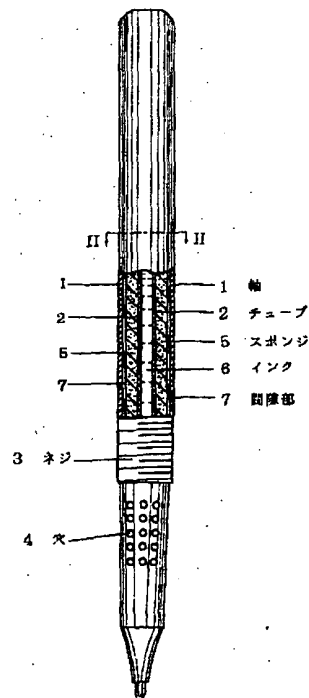
福岡県福岡市南区大平寺1丁目23番21号

(54) 【発明の名称】 香りを出すペン

(57) 【要約】

【課題】 筆記用具に香水を封入し、香水のもたらす心理的な効果によって事務や学習の効率を高めるようにすること。

【解決手段】 ボールペン等の筆記用具の内部に精神を高揚したり、鎮静化したりするはたらきを持つ香水を封入し、ペンの使用時に香水を蒸発させる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ペン軸の内部の空間に香水を封入したペン。

【請求項2】 ボールペンの軸(1)とインク貯留チューブ(2)との間隙に香水を染み込ませた筒状のスポンジ(5)を封入し、ボールペンの軸(1)の下部の周りに複数の細い穴(4)を内部まで穿って成るキャップ(8)付きの請求項1記載のペン。

【請求項3】 ボールペンの軸(1)の下部の周りに複数の縦長または横長の細い溝を内部まで穿ってなる請求項2記載のペン。

【請求項4】 筒状のスポンジ(5)の部分は、吸水性の高い脱脂綿や吸水紙によってなる請求項2記載のペン。

【請求項5】 香水は、ジャスミン及びラベンダーを使用してなる請求項2記載のペン。

【請求項6】 ボールペンの軸(1)の下部の周りに複数の細い穴や溝を穿つ代わりにボールペンの軸(1)の頭頂付近に複数の穴を穿ち、頭部専用の小型のキャップを被せるように形成した請求項2記載のペン。

【請求項7】 ボールペンの軸(1)の下部の周りに複数の細い穴や溝を穿つと共に、軸(1)の頭頂付近にも複数の穴を穿ち、頭部専用の小型のキャップを被せるように形成した請求項2記載のペン。

【請求項8】 ペンが万年筆・サインペン・シャープペンシルである請求項2記載のペン。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ボールペン等、筆記用具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来の筆記用具で、軸の中に香水を封入したものは無かった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】筆記用具に香水を封入し、香水のもたらす心理的な効果によって、事務や学習の効率を高めようとするものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】ボールペン等の筆記用具の内部に精神を鼓舞したり、鎮静化したりするはたらきをもつ香水を封入し、ペンの使用時に香水を蒸発させようとするものである。

【0005】

【発明の実施の形態】本発明の香りを出すボールペンでは、筆記用具としての機能や構成は、従来のものと変わるところはない。

【0006】本発明のボールペンの軸は、合成樹脂で形成する。更に、ボールペンの軸の下から約三分の一の箇所にネジを設け、ボールペンの軸の上部と下部とを接続する形式に形成する。

【0007】また、ボールペンの軸の内部のインク貯留チューブは、細及び中細の太さのものを使用し、ボールペンの軸とインク貯留チューブとの間に空間を確保する。

【0008】更に、ボールペン軸とインク貯留チューブの間隙に、筒状のスポンジを挿入し、スポンジ全体に香水を染み込ませる。そして、この香水の成分である香料とアルコールを蒸発させる箇所として、ボールペンの軸の下方の周囲に複数の細い穴を設ける。そして、ボールペンの軸を指で握ることによって、体温(指の温度)がボールペンの軸を通してスポンジに染み込ませた香水に伝わり、蒸発し易いアルコールと共に香料も蒸発し香るようになる。

【0009】また、ボールペンを使用しない時には、キャップを被せることによって、複数の細い穴を塞ぎ、香水の無駄な蒸発を防ぐことができる。なお、香水を使いきった場合は、ネジの部分から軸を二分してスポンジに香水を補給する。

【0010】

【実施例】実施例について図面を参照して説明する。まず、ボールペンのボールやインク6を貯留するチューブ2及びキャップ8等の構成は従来のものと同じ構成である。

【0011】図1～図2において、本発明のボールペンの軸1は、合成樹脂で形成し、インク6を貯留するチューブ2は、細又は中細のもので形成し、ボールペンの軸1とチューブ2との間隙を比較的広く形成する。

【0012】また、図1において、ボールペンの軸1の下方約三分の一の箇所にネジ3を設け、ボールペンの軸1を上下に二分することができるよう形成する。なお、ネジ3を設けた位置より下方の周囲に複数の細い穴4を内部まで達するように穿つ。

【0013】更に、図1～図2及び図4において、ネジ3の箇所ではボールペンの軸1を上下に二分し、筒状のスポンジ5をボールペンの軸1とインク貯留チューブ2との間隙に挿入する。この際、間隙を筒状のスポンジ5で満たすのではなく、若干の間隙部7を残すように形成する。

【0014】また、図1～図2及び図4において、筒状のスポンジ5にジャスミン、またはラベンダーの香水を染み込ませた後、ネジ3を閉めることによって、香りの出るボールペンは、使用することができるようになる。なお、香水は、ジャスミンの仲間として、グリーンフローラやシトウスを、また、ラベンダーの類としては、鈴蘭やローズ等を使用してもよい。

【0015】また、ボールペンの軸1の下方に複数の細い穴4を穿つ代わりに、複数の縦長又は、横長の細い溝を内部まで達するように穿って構成することもできる。

【0016】また、香水を染み込ませるスポンジ5の代わりに、吸水性に優れた脱脂綿又は吸水紙等を筒状に形

成したものを使用することもできる。

【0017】更に、ボールペンの軸1の下部に複数の細い穴4や縦及び横の細い溝を穿つ代わりに、ボールペンの頭頂付近に複数の穴を穿って香水を蒸発させる構成にすることもできる。この際は、頭部専用の小型キャップを別に必要とする。

【0018】香水の香りをより強く発散させる為、ボールペンの軸1の下部の周りに複数の細い穴4や溝を穿つと共に、軸1の頭頂付近にも複数の穴を穿つ構成にすることもできる。この場合は、頭部専用の小型のキャップを被せて、使用しない時、香水の蒸発を防ぐようにする。

【0019】以上、ボールペンを主体にして構成を述べてきたが、万年筆・シャープペンシル・サインペン等のペンもボールペンと同様の構成にすることができる。

【0020】本発明は、以上のような構成で、これを使用する時は、ボールペンの軸1を握ることによって、体温がボールペンの軸1を経て筒状のスポンジ5に染み込ませた香水に伝わり、香料はアルコールと共に気化し、間隙部7に充満した後、細い穴4から蒸発して特徴のある香りを醸し出すのである。したがって、香水はほのかに香る程度であるが、強く嗅ぎたい時は、細い穴4の箇所を鼻の近くに持ってきたり、軸1を更に高い温度になるよう温めればよい。また、ボールペンを使用しない時には、キャップ8を被せることによって香水の無駄な蒸発を防止することができる。なお、ボールペンの軸1の頭頂付近に複数の穴を穿った構成にした場合は、頭部専用の小型のキャップを被せて香水の無駄な蒸発を防ぐようにする。

【0021】

【発明の効果】本発明は、以上説明したような形態で実施され、以下に記載されるような効果を奏する。

【0022】ジャスミンの香りは、脳波を刺激し、心理的に活力を鼓舞するはたらきがあるといわれている。したがって、創作的な執筆や事務的な仕事の効率を高めたり、受験勉強等では眠気を覚まし活性化する効果がある。したがって、ジャスミン入りのボールペンの使用は、効率的な成果を収めることができる。

【0023】ラベンダーの香りは、神経を休める心理的な作用、即ち鎮静効果を生み出すといわれている。したがって、熟考を要する問題の解決に取り組んでいる時や、間もなく就床するという時には、ラベンダー入りのボールペンが効果を発揮する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一部を切り欠いた平面図である。

【図2】ペン軸の横断面図である。

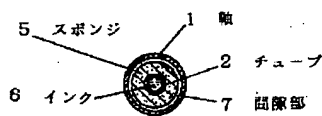
【図3】キャップの平面図である。

【図4】スポンジの斜視図である。

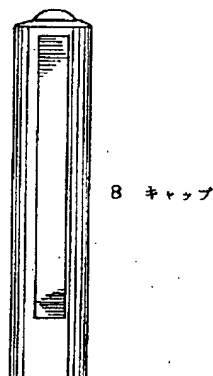
【符号の説明】

- 1 軸
- 2 チューブ
- 3 ネジ
- 4 穴
- 5 スポンジ
- 6 インク
- 7 間隙部
- 8 キャップ

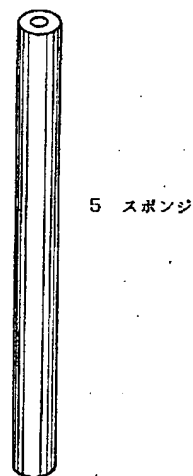
【図2】



【図3】



【図4】



【図1】

